

ひきこもり支援方針

支援に対する基本的な考え方

(1) 基本理念

ひきこもりへの理解を深め、誰もが生きやすい社会・地域づくりをめざして

(2) 基本目標

ひきこもりの状態にある方やその家族がいつでも相談することができ、誰もが自分らしく暮らすことができる社会・地域づくりをめざします。

(3) 基本方針

基本方針1

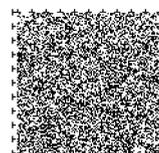
一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな支援の充実

基本方針2

関係機関との連携による支援の充実

基本方針3

ひきこもりへの理解促進



【基本方針1】一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな支援の充実

(1) 現状と課題

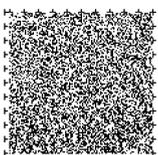
- 本市では、平成24年5月に1か所目のひきこもり地域支援センターを設置し、令和5年10月に設置した2か所目とあわせて市内に2か所開設しています。
本人や家族等からの相談に、電話や来所のほか、LINE、訪問で応じております。
また、本人が安心して過ごせる居場所の設置や、オンラインの居場所などの取り組みを行うとともに、悩みを抱えている家族への支援として、ひきこもりについての理解を深める家族教室や家族同士の交流会を開催しています。
- 令和5年度に実施した「名古屋市 生活状況に関する調査」では、本市でのひきこもり状態にある方が推計で約22,600人という結果となりました。
ひきこもり地域支援センターの開設当初から令和5年度までの新規来所相談者数約1,100人と大きく乖離しており、多くの方が相談につながっていないことがわかりました。
- 同調査では、ひきこもり地域支援センターを「知っている」と回答した人は全体の3.6%と相談機関の中では最も認知度が低い結果となりました。
- 同調査では、必要な支援について「同じような状況の人と話せる場所がほしい」、「社会とのつながりを持てる場所や機会を増やしてほしい」などのご意見がありました。
- ひきこもりの状態は、誰にでも起こりうる可能性があり、ひきこもりになる背景や要因、ひきこもっている間の葛藤や悩み、今後望む生活や生き方は一人ひとり異なります。ひきこもりの期間が長期にわたる場合もあります。
家族も悩みや苦しい思いを抱えており、その状況が長期間にわたる場合もあります。

<参考>ひきこもりの3つの要因

心理的要因	不安・怯え、自分への落胆、とらわれ、希望が持てない など
生物学的要因	精神疾患や生まれ持った発達の特長 など
社会的要因	家族や学校、職場との関係、文化や社会の影響 など

(2) 今後の取り組みの方向性

- 悩みや困りごとは多岐にわたり、ひきこもりが悩みとは限らないため、何かに困った時に気軽に相談ができるように、また、支援が必要な状況であることに気づいていない人が支援につながるように、わかりやすい、相談しやすいと感じられる相談窓口の周知等を行います。



- 本人や家族の状況を把握するとともに、一人ひとりの状況に応じた支援を検討し、継続的な支援に取り組みます。また、支援では、じっくりと長い年月をかけて取り組む必要がある場合もあります。支援が途切れないよう取り組みを進めるとともに、本人や家族の様々な思いや希望に対して丁寧に対応していきます。
- 人と人とのつながりやきっかけなどを通じて社会とつながる気持ちになれるような安心して過ごせる居場所や地域の身近な社会参加の機会の提供により、本人の興味や適性、希望に合った社会参加ができるよう取り組みます。
- ひきこもりの支援では、家族関係の安定が本人の安心につながり、踏み出す土台になるとも言われていることから、家族の信頼関係の構築に向けた支援に取り組みます。
- ひきこもりの原因は自分たちのせいではないかと責めるなど、将来への不安や絶望感から生きづらさを感じている家族もみられます。また、ひきこもる家族がいることを誰にも話せず、社会から孤立してしまうこともあります。そのため、家族を支える支援に取り組みます。

(3) 主な取り組み

① 本人・家族に届く効果的な相談窓口の周知、情報発信

● 相談につながる情報発信

今の状況を何とかしたいと思っているがどうしていいのかわからない、自分がひきこもりだとは思っていないがこの悩みは少し当てはまるかも、本人は今の状況に困っていないが家族はどこかに相談したいと思っている、など本人や家族の思いは様々です。

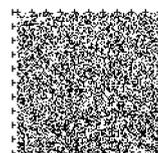
また、ひきこもり状態であることへの否定的な評価を気にして、さらに行動範囲が狭まるなど孤立してしまうことがあります。誰にでも起こりうることであり社会の支えが必要であることへの理解の促進や偏見の解消、自分らしさを取り戻したり本人が望む生活に向けて支援が受けられるなど、本人や家族が孤立せず、安心して相談できるような啓発や情報発信を行います。

● 様々な機会を捉えた相談窓口等の周知

本人や家族が「今の状況を変えたい」「今後のことを相談したい」と思った時に、抱えている悩みや困りごとにあつた相談や支援の情報を得ることができるよう、市の広報媒体、名古屋市ひきこもり支援ポータルサイト「リリンク(りりんく)」や名古屋ひきこもりメタバース「ゆるリリンク(ゆるりりんく)」などインターネットの活用、身近なコンビニでの広報など、様々な機会をとらえて相談窓口等を周知します。

<参考> メタバースとは

コンピューターやコンピューターネットワークの中に構築された、現実世界とは異なる3次元の仮想空間やそのサービス



● 相談のしやすい環境づくり

本人や家族の意思を尊重し、苦しい思いを受け止め、共に考える姿勢で支援に取り組みます。

また、「相談のしやすさ」は、本人・家族の状況により異なるため、対面や電話での相談のほか、訪問相談やSNS相談など、相談者が相談しやすい方法を選択できるよう取り組むとともに、ひきこもり経験者と交流できる居場所やその家族に相談できるなど、相談しやすい環境づくりに取り組みます。

● 中学生など早い時期からの相談窓口の周知

抱えている悩みにより早めに相談につながるができるよう、中学生などの早い時期から様々な相談窓口が存在することを周知するとともに、ひきこもりに関する啓発など理解促進に取り組みます。

<参考>名古屋市総合計画2028 計画目標

- ・ひきこもり地域支援センター相談件数 7,000件
- ・メタバースを活用した支援の推進 アクセス数 10,000件

② 一人ひとりの状況に応じた支援

● きめ細かいアセスメント

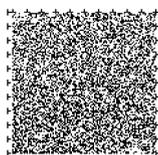
本人の状況や興味、家族の困りごとなどをよく把握し、その人にあった支援を行います。

● 信頼関係の構築と継続的支援

アセスメントを基に、本人の意向を尊重した支援メニューを考えるとともに、本人や家族との信頼関係を構築し、必要に応じて適切な関係機関を紹介するなど、本人の状況や希望に寄り添って継続的に支援します。

また、ひきこもり経験者やその家族であるピアサポーターの活用による心情に寄り添った支援や、外出できない場合などにはアウトリーチによる支援、支援が長期間にわたる場合には途切れることがないような支援に取り組めます。

また、社会とつながったあとも、本人の状況や希望に応じて支援を継続します。



③ 多様な社会参加の場の充実

● ひきこもり地域支援センターの居場所

ひきこもりの悩みを抱えている本人を対象にセンター内やメタバースなどオンラインでの居場所を開設しています。社会参加の第一歩として安心して過ごせる居場所にするとともに、気持ちに余裕ができる居場所づくりを進めます。また、他の参加者との交流やイベントの開催、ひきこもり支援サポーターの活用など、利用しやすい環境づくりを図ります。

● 地域の社会資源の活用

地域のひきこもり支援に関する情報を収集し、ニーズに合わせて本人に情報提供します。

● 多様な社会資源の開拓

本人の興味や適性、希望に沿って社会参加の場や機会が提供できるように、社会資源の開拓に取り組みます。

● 就労支援

就労を希望する方には、ハローワークや仕事・暮らし自立サポートセンター等の就労支援機関と連携して、本人の特性に応じた就労訓練や就職活動をサポートします。

④ 家族を支える取り組み

● 家族同士の交流

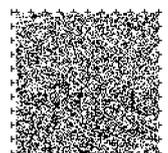
将来の不安や生きづらさを感じている家族に向けて、同じ悩みを抱える家族同士の交流の場である「家族のつどい」や、ひきこもりに関する情報を得ることができる「家族教室」を開催するとともに、身近な場所やオンラインでの開催など、家族に負担のかからない交流方法の検討や兄弟姉妹への支援に取り組みます。

● 支援団体への支援

地域で活動している民間支援団体への支援を行います。

<参考>名古屋市総合計画2028 計画目標

・ひきこもり地域支援センターの家族教室参加者数 100件



【基本方針2】 関係機関との連携による支援の充実

(1) 現状と課題

- 本人や家族が抱えている悩みや希望は状況により異なるため、相談窓口は多岐にわたります。また、複合的な課題を抱えていたり、家族も含めて支援が必要なケースもあります。
- ひきこもりの相談につながるきっかけや必要な支援は個々の状況により様々です。
- 医療機関、就労支援機関など様々な分野の関係機関と連携し、一人ひとりの状況に応じた支援ができるよう取り組んでいます。

(2) 今後の取り組みの方向性

- 一人ひとりの状況に応じて、関係機関や社会資源を持つ団体などと連携して支援します。
- 関係機関からのひきこもりに関する相談に対して、支援の助言やケースによっては引き継ぐなど協力して支援に取り組めます。
- 多様化する課題に対応するため、幅広い支援の知識の取得とともに支援が長期にわたることもあるため、関係機関も含めた支援員の心のケアに取り組めます。

(3) 主な取り組み

① 関係機関との連携による支援

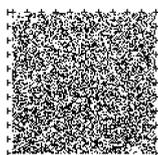
● 切れ目のない支援

一人ひとりの状況に応じて、本人の意向や年齢、生活状況の変化を踏まえながら、必要に応じて教育機関や医療機関などの関係機関と連携して支援を行います。

そのためにも連携先の希望する連携のあり方など、事前に調整し円滑な連携を図ります。

● 関係機関同士のネットワーク

関係機関の連携を強化していくために、お互いの取り組みや支援に対する考え方を共有していくとともに、事例を通してノウハウの共有を図ります。また、関係機関を構成員とする「ひきこもり支援関係団体連絡会議」を定例的な意見交換の場として活用するなど、関係機関同士の円滑なネットワーク構築を図ります。



- **地域のネットワークづくり**

本人や家族が地域で孤立することなく受け入れられる居場所など、本人や家族が安心して生活できるように地域における支援ネットワークづくりに取り組みます。

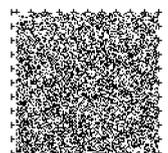
② 支援の質を高める取り組み

- **支援スキルの向上**

関係機関の支援員を対象に、ひきこもり支援の現状や課題に応じた研修や事例検討などを行います。また、国などが実施するひきこもりに関する研修や国のひきこもり支援ハンドブックなどの情報を関係機関へ情報提供します。

- **支援員への支援**

関係機関の支援員を対象に、日々の業務における支援員自身のストレスのケアなどを目的とした研修を行います。



【基本方針3】 ひきこもりへの理解促進

(1) 現状と課題

- ひきこもっている本人は、いつの間にか参加できる場が少なくなっていたり、人と関わりたくてもきっかけがつかめなかったり、自信のなさや不安を感じていたりする場合があります。
- 本市が行った「名古屋市生活状況に関する調査」では、ひきこもりの状態になったきっかけは「不登校」や「病気」、「人間関係がうまくいかなかった」、「退職」、「職場になじめなかった」など理由は様々でした。
また、家族も本人への心配や将来の不安などから気軽に相談できないことがあります。
- 同調査では、ひきこもり状態であると回答した方の年代は40代が一番多く、次いで50代と中高年が多く、過去の就労経験の問いでは約91%の方が何らかの就労経験があると回答されていました。
- 同調査で、「孤独を感じている」と回答した方は、ひきこもり状態の方は64.3%、ひきこもり状態でない方は23.8%であり、ひきこもり状態の方が高い結果となりました。

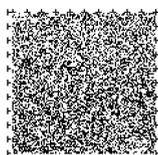
(2) 今後の取り組みの方向性

- 本人や家族が安心して相談し、支援を求めることができるようにするためには、誰にでも起こりうるひきこもりという状態について、多くの方が理解を深め、社会全体で支援する必要があります。
- 誰もが生きやすい社会としていくために、ひきこもりへの理解の促進と悩んでいる方が相談につながるように相談窓口等の周知啓発を進めます。

(3) 主な取り組み

● ひきこもりへの理解の促進

誰にでも起こりうるひきこもりについて、差別意識や偏見を解消し、本人や家族を含めた多くの人々の理解を深めることで相談につながるように、様々な機会を捉えてひきこもりへの理解と相談窓口等の周知啓発を行います。



方針の推進について

今後、取り組みの実施状況の報告や検証を庁内推進会議で実施するとともに、本方針の内容については、国の動向を踏まえた修正や事業を進める中で出てきた課題などにより見直すこともあります。なお、見直しにあたっては、本人やその家族、支援機関等のご意見を伺うなど実情に即した見直しになるように進めてまいります。

